

九州の歴史新聞

2025年8月
田中学園立命館
慶祥小学校
5年2組
原大和

稲作から戦争へと発展

吉野ヶ里遺跡は、佐賀県にある日本最大級の集落遺跡で、日本の古代の歴史を知ることができる場所だ。今からおおよそ1800年前のものと考えられており、ここが伝説の邪馬台国だとする説もある。吉野ヶ里遺跡では弥生時代の家や物見やぐらなどのたくさんの建物が復元され、勾玉づくりや石包丁づくりなどが体験できる。

勾玉は、やわらかい高嶺石を削って作った。カーブになっているところをなめらかにするのがとても難しく時間がかったが、満足のいく仕上がりになってうれしかった。

一番印象に残っているのは、つばに埋葬された首なし人骨だ。弥生時代には中国大陸から稲作が伝わり、水田での米作りが始まったことで土地と水を求めて集

難攻不落の名城 熊本城



当時の最先端技術で作られた熊本城。完全復旧に向けて応援したい。

落同士で戦争が起きたそうだ。首無し人骨の他に、首だけを埋葬したものや石剣が突き刺さった遺体があったり、敵を撃退するために堀を超えた先にとんがった棒が設置されてあったりして、弥生時代は僕が考えていたよりも激しい戦いの時代だったことがわかった。

熊本城は、当時の最先端技術と労力を投じて1607年に加藤清正が築いた城だ。「武者返し」と呼ばれる、敵の侵入を防いだり敵

に攻撃を当てやすくするための石垣の積み方をしており、「最強の城」と呼ばれている。展望台からは熊本県内を一望でき、土木の神

様・加藤清正も昔、ここから景色を眺めては治水工事の計画をしていたのかなと思った。
熊本城は、2016年4月の熊本地震で大きな被害を受け、石垣が崩落したり、重要文化財建造物が一部倒壊や全壊してしまっただ。完全復旧は2050年とされており、被害の大きさを実感した。しかし、熊本城はこれまでも地震や大雨などの天災によって傷つきながらも、そのたびに復活してきた「不屈の名城」でもある。

2050年、僕は36歳だ。その時、完全復旧した熊本城を見られるのが楽しみだ。これからも熊本城の復興を応援したい。

太宰府天満宮の橋

その作法とは

学問の神様・菅原道真を祀る太宰府天満宮には、三つの赤い橋がある。一つ目

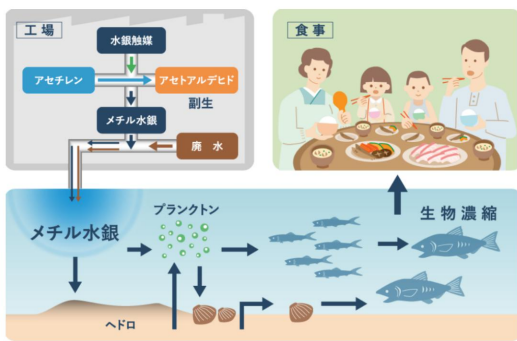
太宰府天満宮のお土産

太宰府天満宮では、お土産や思い出の品を買った。僕が選んだお土産は大宰府餅だ。あんこが甘くておいしくて、家族が喜んでくれた。思い出の品は、友達と一緒に買ったアニメキャラクターのご当地キーホルダーだ。これをきっかけにもっと仲良くなれた気がしてうれしかった。その他に、僕はお守りやふくろうのキーホルダー、友達は明太子や学業鉛筆を買った。友達と相談し合いながら買い物をするのはとても楽しく、あっという間に時間が過ぎた。

と三つ目が太鼓橋、二つ目は平橋になっていて、前から順に「過去」「現在」「未来」を表している。この橋を渡るときは作法は、「過去」は振り返らない、「現在」は立ち止まらない、「未来」はつまずかないようにすることだ。意外と難しかったのは、「現在」の橋を立ち止まらずに渡ることだ。きれいな景色に夢中になり、つい立ち止まりそうになってしまったからだ。みんなで声を掛け合いながら渡り切ることができてうれしかった。

日本の公害病の原点・水俣病

水俣病とは、熊本県水俣市の矢代海岸沿岸地域で発生した公害病だ。原因はアセトアルデヒドを生産するときに発生するメチル水銀で、工場排水に含まれたメチル水銀に汚染された魚を人間が食べることで、手足のしびれや言語障害などの神経系症状を引き起こす。これは人間だけでなく、汚染された魚を食べた猫や鳥もかかってしまうこともあった。



環境省 水俣病情報センターHPより

・成人水俣病と、母親が妊娠中に胎盤を通じてメチル水銀を取り込んだ胎児に発症する胎児性水俣病がある。水俣病は遺伝することはないが、誤った認識で、水俣病の被害地域出身というだけで結婚を断られる差別が広がったこともあった。水俣病の患者さんは、病気だけでなく、差別や偏見とも戦わなければならなかったことを知り、このような悲劇を絶対に繰り返してはならないと思つた。また、今も水俣病の症状に苦しむ患者さんがいることを忘れてはならないと思つた。

誤った情報による差別

僕たちは、しらす漁の漁師で、水俣病の語り部でもある杉本肇さんのお話を聞かせていただいた。杉本さんの家族では祖母が最初に水俣病にかかった

が、そのことを実名でラジオ放送されたことで近所の人からひどい差別を受けた。その後、他の家族も発病し、いつも誰かが入院している状況だった。祖父が

起こした裁判に勝ち、周囲から謝罪を受けたが、語り部として活動された杉本さんの母は「その時は人を信じるのができなくなっていた」「家族のように仲が良かった人から差別を受けたことが、病気のもののよしも一番つらかった」と話

わからないことに対して不安になるのは当然だが、差別や偏見は絶対にいけないと思つた。SNSが発達した現代では簡単に情報が手に入るが、中には誤った情報も混ざっている。正しい情報をもとに正しく判断すると共に、知る努力をし続けられる人になりたい。

編集後記

今回の研修旅行では様々な時代の九州の歴史を学び、戦争や公害、災害などの悲しい歴史があったが、それらを乗り越えて今の九州があることがわかった。水俣病の語り部の杉本さんは、同じ悲劇を繰り返さ

ないために水俣病のことを後世に語り継いでいる。このことから、歴史を学ぶことは、よい未来を作ることにつながるのだと思つた。これからも色々な歴史について学び、日本を安全で平和な国にしていきたい。研修旅行でお世話になった皆さんや先生方、楽しい時間を一緒に過ごしたみんな、本当にありがとうございました。



太宰府天満宮の橋（左）